

[時評]

理事 ● 中島 公博

令和3年、東京2020オリンピック、
パラリンピックを振り返って

今年一番のイベントは、COVID-19、コロナ禍の影響で1年間延期になった東京2020オリンピック、パラリンピックが、緊急事態宣言の中でも無事に終了したことでしょう。反対意見も多数ある中での開催でしたが、日本人選手の大活躍でコロナ禍の鬱積した空気が吹き飛んだような気がしました。

私の住む札幌市では、東京の暑さ対策として、競歩、男女のマラソンの競技が行われました。当初は、「景色に何も無いから走るのがしんどい」「沿道に応援も少ないだろう」などの批判的意見が多く見られました。札幌市が誘致したわけでもありませんが、多くの批判を受けて札幌市民は憤慨していたものです。男女のマラソンコースは、学生時代から外科医時代にかけて通い慣れた北海道大学構内を通るといふことで、観戦したかったのですが、札幌市ではコロナ感染者が増加している真っ只中でしたので、行けずじまいでした。

今年の札幌市、北海道は例年になく猛暑が続き、18日間連続真夏日は史上最多でした。8月6日は、札幌市で35度の猛暑日となり、何のためにマラソンが東京から札幌に開催変更になったのか分からない状況でした。8月7日の女子マラソンは、スタート時刻を朝7時から1時間早めての6時からとなりました。当日は、確かにうだるような暑さでした。コロナ禍の中でも、沿道には多くの観戦者がいましたが、ほとんどが道外から来た人だったようです。8月8日の男子マラソンも猛暑の中でした。日本人最高位の大迫選手は6位入賞と見事でした。あの暑さの中で2時間以上も、我々から見たら全速力で走るのですから完走した選手は全員金メダルものです。

東京オリンピックの後、東京2020パラリンピック競技大会が、8月24日から9月5日までの13日間、開催されました。パラリンピックは、国際パラリンピック委員会（IPC）が主催する、身体障害者（肢体不自由：上肢・下肢及び欠損、麻痺）、脳性麻痺、視覚障害、知的障害を対象とした世界最高峰の障害者スポーツの総合競技大会

です。国際オリンピック委員会（IOC）と違う組織なんですね。知りませんでした。どうして、パラリンピックはオリンピックの後に開催するのでしょうか。開会式や閉会式も別々に行っています。障害者の差別のない共生社会を目指すと言いつながら、別に開催するのは差別にならないのでしょうか。また、パラリンピックの対象者は、身体、知的、精神の3障害のうち精神障害は入っていません。統合失調症や双極性感情障害の選手はいないのです。精神疾患は、三障害の中では特別なものになっています。

さて、ここで提案です。IOCとIPCを統合して、オリンピックとパラリンピックの同時開催ないしは、パラリンピックをオリンピックに吸収させるのはどうでしょうか。例えば、オリンピックの柔道は体重別になっていますが、それに加えてパラリンピックの柔道の視覚障害枠を入れて行うのです。肢体不自由、視覚障害、知的障害のクラス分けがあるパラリンピックの水泳は、オリンピックの一般とは別枠で同時に開催すれば良いと思います。

令和3年の1年間も昨年同様に、コロナ禍で不自由な生活を強いられました。9月に横浜市で開催された第10回日本精神科医学会学術大会でのセミナーは、札幌からのweb発表となり、現地に行けずに残念でした。コロナ禍の影響で学校では、対面での授業や行事ができず、オンラインや延期になったりと、中高生、大学生にも多大な影響が出ています。多感な時期にリアルでの対人関係を築けなくなる環境は心身共にストレスとなって種々の精神症状に現れます。当院ストレスケア・思春期病棟には、心身の変調を来した高校生が普段よりも多く入院しています。コロナ禍の早期収束を期待したいものです。

当院の忘年会は、昨年はコロナ禍で中止となりました。今年も対面での飲食はできませんが、webでの大忘年会を開催して職員との親睦を深め、今年1年の締めくくりとします。